

147  
モ一七  
聖徒伝 40

# 「憐れみの約束に 生かされて」

レビ記25～27章

ヨベルの年・背教の予告

レビ記④

## 【今日のアウトライン】

0. ふりかえり

I. ヨベルの年 25章

II. 祝福と呪い 離散と回復 26章

III. 誓願に関する諸規定 27章

IV. まとめと適用

主イエスに学ぶレビ記の適用

「サマリア人のたとえ」から



# 【アブラハム契約とは？】

聖書全体を貫く、大原則

神の世界回復と人類救済計画の柱

## 【三つの主な条項】

①子孫の約束

②土地の約束

③祝福(地上の諸民族の祝福)の約束

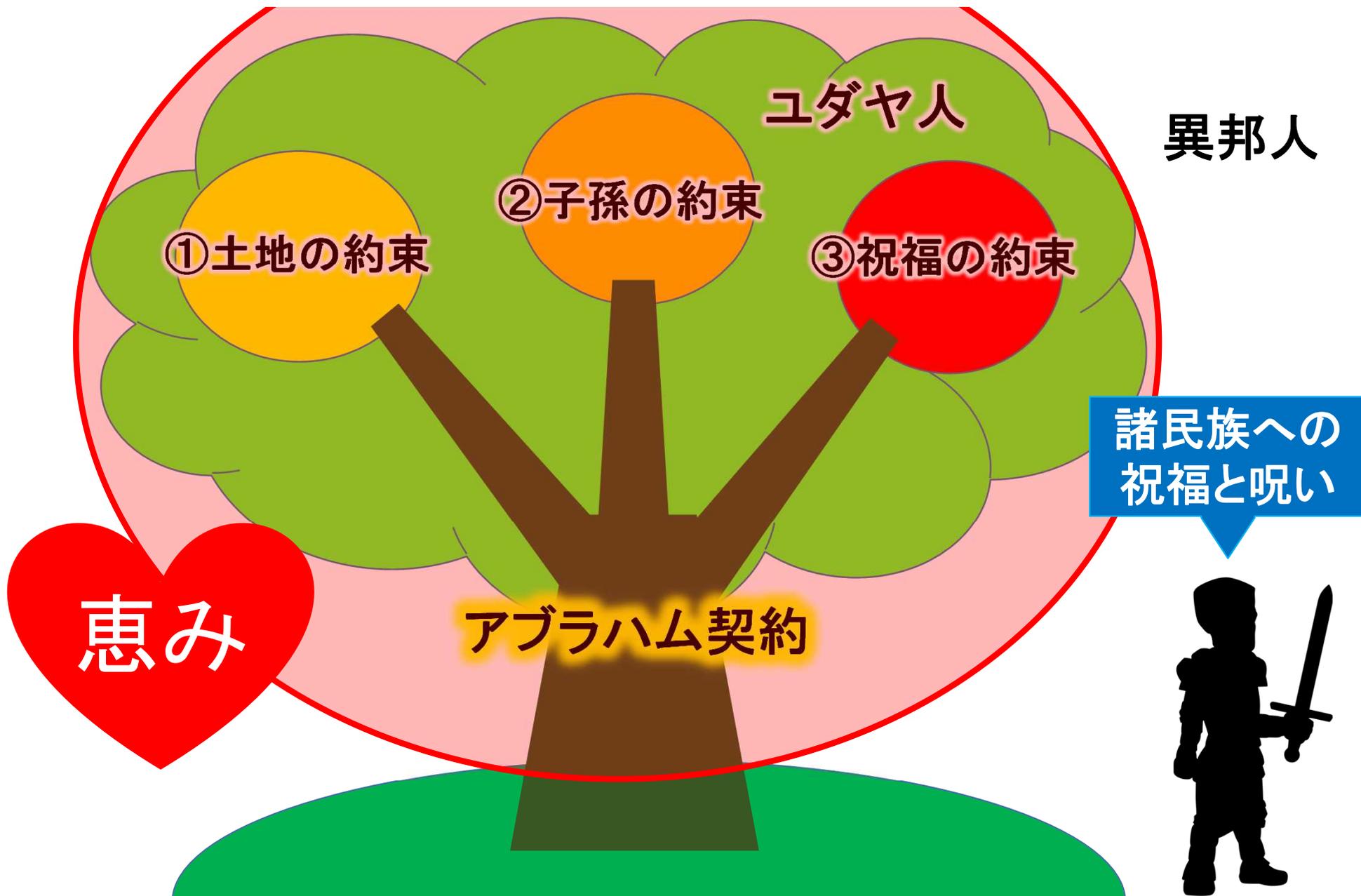
※付帯条項 ...祝福と呪い。イスラエルの生存保証。

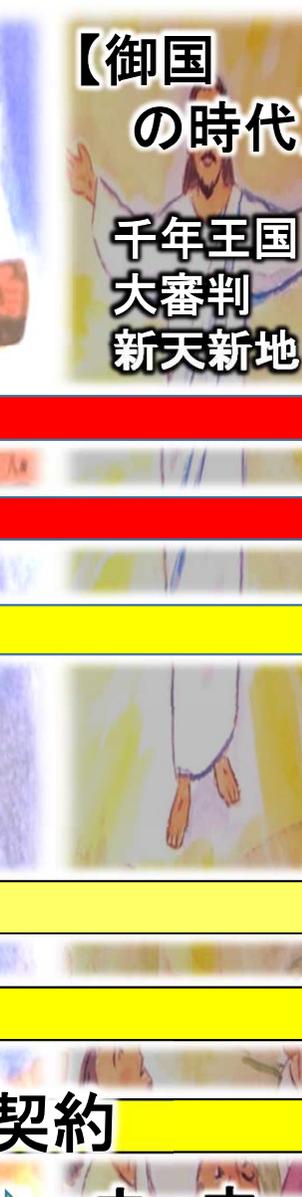
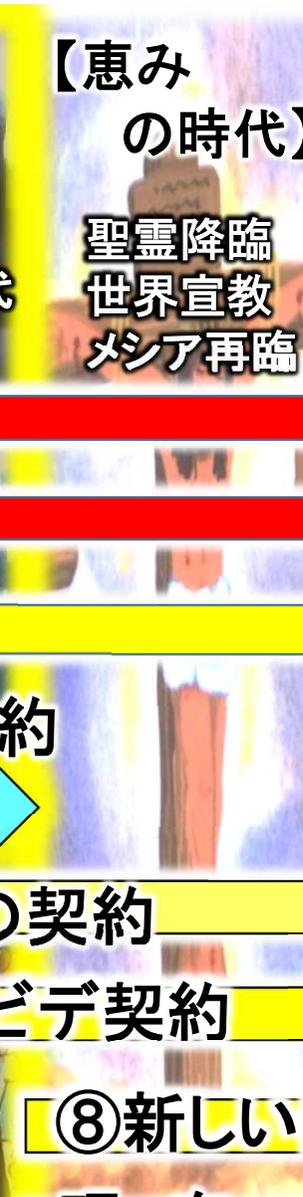
※しるし ...割礼

律法の土台にも、  
アブラハム契約がある!!



【アブラハム契約】





【無垢の時代】

【良心の時代】

【人類統治の時代】

【約束の時代】

【律法の時代】

【恵みの時代】

【御国の時代】

天地創造

墮罪  
~大洪水

バベルの塔事件

アブラハム  
~ヤコブ

イスラエル  
王国時代  
メシア初臨

聖霊降臨  
世界宣教  
メシア再臨

千年王国  
大審判  
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

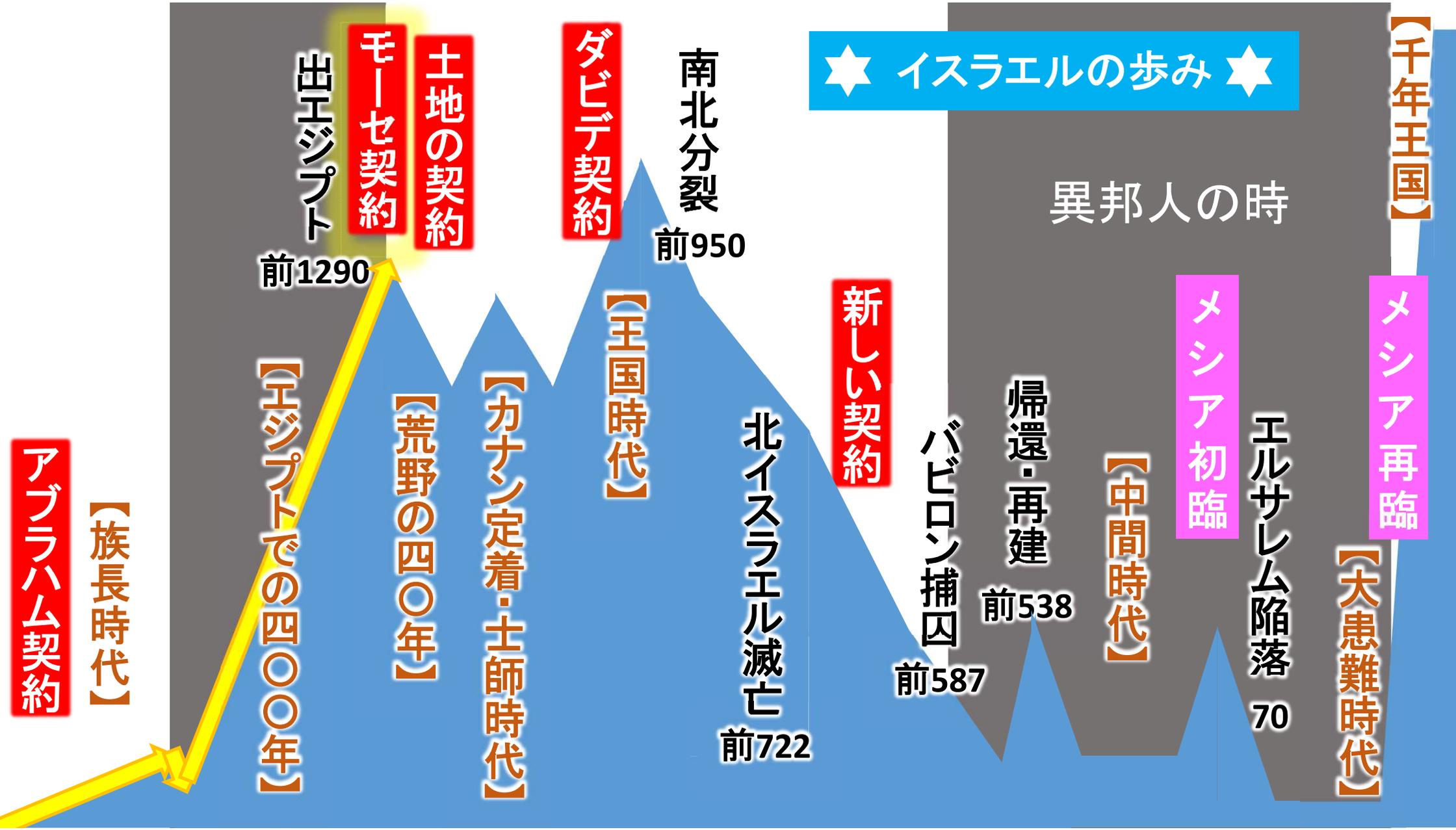
神の約束が、人類と世界の歴史を導く!!

過去

現在

未来

★ イスラエルの歩み ★



アブラハム契約

【族長時代】

【エジプトでの四〇〇年】

出エジプト

前1290

モーセ契約

土地の契約

【荒野の四〇年】

【カナン定着・士師時代】

ダビデ契約

【王国時代】

南北分裂

前950

北イスラエル滅亡

前722

新しい契約

バビロン捕囚

前587

帰還・再建

前538

【中間時代】

メシア初臨

エルサレム陥落

70

【大患難時代】

メシア再臨

【千年王国】

異邦人の時

# 【イスラエルの荒野の歩み】

■エジプト → シナイ山まで

3ヶ月

## ■シナイ山での律法授与

- ① 一度目 40日間
- ② 金の子牛事件
- ③ 二度目 40日間

3ヶ月

## ■幕屋建設

(律法の学び?!)

6ヶ月

## ■点呼・出発

1ヶ月後



民数記

## 【モーセの律法 十戒とは？】

### ★モーセの律法(モーセ契約・シナイ契約)

- ・シナイ山で、イスラエルと結ばれた契約
- ・「十戒」がその中心 ...全部で613の条項  
(出20:1～申28:68)

### ★モーセの律法の七つの特徴

- ①救いの方法ではない。
- ②神が聖であることを示す。
- ③旧約時代の聖徒たちの行動基準である。
- ④人の罪を示す
- ⑤人にもっと罪をおかさせる力となる。
- ⑥人を信仰へと導く
- ⑦今現在は、すでに役目を終えた。



律法は、条件付き契約

従えば、祝福。破れば、呪い

## 【レビ記の主な内容】

■ 律法の中の、“祭司の奉仕マニュアル”

■ 正しい礼拝の方法を教えるもの

※聖なる国民、祭司の国 イスラエルには重要!!

## 【レビ記で学ぶこと】

■ 神のきよさ

■ 人の罪の深さ

■ 神との和解には、血による贖いが必要

■ メシアとは、どのような方か

【※注意】 律法自体の役目は終了。

直接、現在に適用するのは間違い!!





I. ヨベルの年

レビ記25章

## 【安息年の規定】 レビ25:1~7

■ 約束の地に入ってから実行すべき命令。

■ 6年間耕作し、7年目は土地を休ませる。

安息年の1年間は、自然のものだけを食べる。

## 【安息日と安息年】

■ イスラエルにとって、最も重要なのが安息日。

➡7日目に休息した。

■ 安息日(7日目) ➡安息年(7年目) ➡ヨベル(50年目)  
より大きな主への信頼が求められる。

➡ヨエルの年に求められるのは、神への全き信頼。



【ヨベルの年】 レビ2:8～22

■ 7年 × 7回 = 49年の後の、50年目が、**ヨベルの年**

➡ヨベルは、“雄羊の角”の意味。

■ この年の**贖罪日**に角笛が吹かれ、解放が宣言!!

すべての負債が免除。土地も返還。奴隷は解放。

➡49年目 + 50年目の2年間、土地が休みに!!

➡48年目に3年分の収穫を与える!! (神の約束)

※聖書に、ヨベルの年が実行された記事はなし!!

➡神への全き信頼がなければ、実行不可能



【ヨベルの年が示すもの】

■ ナザレの会堂でのイエスの宣言。

「今日、この聖書のことば\*が実現しました。ルカ4:21」

➡ \* イザヤ61:1~3 ...ヨベルの年の解放を告げた聖句

「【神】である主の霊がわたしの上にある。貧しい人に  
良い知らせを伝えるため、心の傷ついた者を癒やすため、  
【主】はわたしに油を注ぎ、わたしを遣わされた。捕らわれ  
人には解放を、囚人には釈放を告げ、【主】の恵みの  
年\*、われらの神の復讐の日を告げ、すべての嘆き悲し  
む者を慰めるために。イザヤ61:1~2」

➡ \* 主の恵みの年 = ヨベルの年

ヨベルの年は、メシアによる真実の解放と回復を示す!!



## 【土地の買い戻し権】 レビ25:23～34

■ 負債により売られた土地に、買い戻しの権利が命じられた。

➡ 土地は、神が各部族に与えられた、約束の土地。

➡ 本当の所有者は、主ご自身。イスラエルは、寄留者。

「レビ 25:23 土地は、買い戻しの権利を放棄して売ってはならない。土地はわたしのものである。あなたがたは、わたしのもとに在住している寄留者だからである。」

■ 権利を有する親族もしくは、本人が買い戻す義務がある。

➡ 買い戻しがなされない場合、ヨベルの年に返還された。

■ ルツ記では、ボアズが、ナオミの夫の土地を買い戻した。

➡ ボアズのひ孫がダビデ。ダビデの子孫にメシアが誕生!!

最終的にイスラエルを買い戻すのは、再臨されるメシア!!



バビロン捕囚以降、約束の地の占有権は、失われる!!

## 【奴隷に関する規定】 レビ25:39～55

■ 債務奴隷の禁止 ...イスラエル人が返済不能な債務を負っても、奴隷にしてはならない。

→ 住み込みの雇い人となり、ヨベルの年には解放された。

■ 外国人の奴隷は、家の財産であり、相続の対象となった。

■ イスラエル人が、在留異国人に身売りした場合、土地の場合同様、買い戻しの権利が保証された。

→ 扱いはやはり、住み込みの雇い人。

■ 主に救われた神の民は、もはや奴隷となることはない!!

福音を信じて救われた者は、真の神の民として、永遠に解放されている!!





## Ⅱ. 祝福と呪い 離散と回復

レビ記26章

## 【レビ記の律法の要約】 レビ26:1～2

「あなたがたは自分のために偶像を造ってはならない。また自分のために彫像や石の柱を立ててはならない。あなたがたの地に石像を立てて、それを拝んではならない。わたしがあなたがたの神、【主】だからである。あなたがたはわたしの安息日を守り、わたしの聖所を恐れなければならない。わたしは【主】である。」

① 偶像礼拝の禁止

② 安息日の遵守 ... 安息年、ヨベルの年も含む。

③ 聖所を恐れること ... 定められた主の礼拝を守る。

守れば、祝福  
破れば、呪い  
それが、律法



## 【従う者への祝福】 レビ26:3～13

### ■ 律法に従うイスラエルへの三つの祝福

- ① 物質的な祝福 ...季節の雨。豊かな実り
- ② 平和の約束 ...悪い獣も、侵略者もなくなる
- ③ 主の臨在の約束 ...民の間に主が住まわれる

「出 29:46 彼らは、わたしが彼らの神、【主】であり、彼らのただ中に住むために、彼らをエジプトの地から導き出したことを知るようになる。」

➡ 主の臨在は、幕屋に宿り、後には神殿に宿った。

### ■ メシアは、神の栄光そのものとして地上に住まわれた。

「ヨハネ1:14 ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。私たちはこの方の栄光を見た。」



## 【不従順な者への呪い】 レビ26:14～33

### ■ 律法に不従順なイスラエルへの5つの呪い

- ① 病と敵からの恐怖 ...神が顔を背けたため。
- ② 飢饉 ...7倍の懲らしめ(完全な裁き)。
- ③ 野の獣 ...さらに7倍。人口減。荒廃。
- ④ 戦争 ...さらに7倍。疫病。食糧危機も。
- ⑤ 地の荒廃と民の離散 ...さらに7倍。

廃墟となる町々、聖所。散らされる民。

### ■ 不従順のゆえ、イスラエルが被ってきた苦難。

➡バビロン捕囚(BC586)、エルサレム陥落(AD70)

そして、**大患難時代**には、反キリストによる攻撃が。



イスラエルへの  
究極的裁きが  
大患難時代

【離散の結果起こること】 レビ26:34～39

- 安息年が成就。土地は休み、地力を蓄える。
  - バビロン捕囚では、70年間、土地は安息を得た。
- 離散したイスラエルは臆病になり、弱くなり、  
離散の地で死んでいく。
  
- ローマによるエルサレム陥落が紀元70年。  
以降、今も続くイスラエルの離散。
  - 原因は、イスラエルがメシアを拒否したこと。
- イスラエルが、離散から完全に回復されるとしたら、  
それは、**悔い改めて、メシアを受け入れる時!!**



【イスラエルの咎が告白される時】 レビ26:40～41

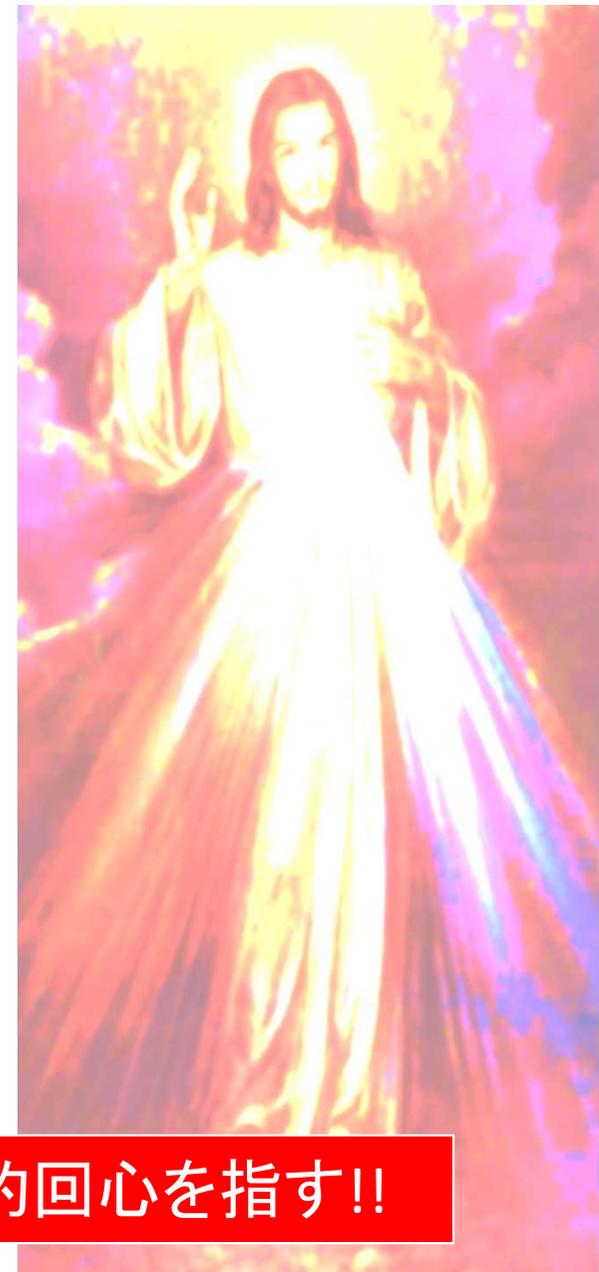
「彼らは、自分たちの咎と先祖の咎\*を、つまり、わたしの信頼を裏切って、わたしに逆らって歩んだことを告白するが、このわたしが彼らに逆らって歩み、彼らを敵の国へ送り込むのである。もしそのとき、彼らの無割礼の心がへりくだるなら\*、そのとき自分たちの咎の償いをすることになる。」

\* イスラエルがメシアを拒んだ咎

\* 悔い改めて福音を信じて新生すること

➡「ロマ 2:29 御霊による心の割礼こそ割礼」

究極的には、大患難時代の最後の、イスラエルの民族的回心を指す!!



【イスラエルの回復】 レビ26:40～46

■イスラエルが見放されない根拠が、**アブラハム契約**

「レビ26:42 わたしはヤコブとのわたしの契約を思い起こす。またイサクとのわたしの契約を、さらにはアブラハムとのわたしの契約をも思い起こす。」

➡アブラハム契約は、永遠の無条件契約。

■クリスチャンは、イエスをメシアとして信じたとき、アブラハム契約の恵みにあずかる者とされている。「あなたがたがキリストのものであれば、アブラハムの子孫であり、約束による相続人なのです。ガラ3:29」





土地の契約

ダビデ契約

新しい契約

①土地の約束

②子孫の約束

③祝福の約束

アブラハム契約

アブラハム契約が  
永遠だからこそ、  
接ぎ木された  
私たちの救いも永遠!!

私たちの救いも  
アブラハム契約を  
根としている!!

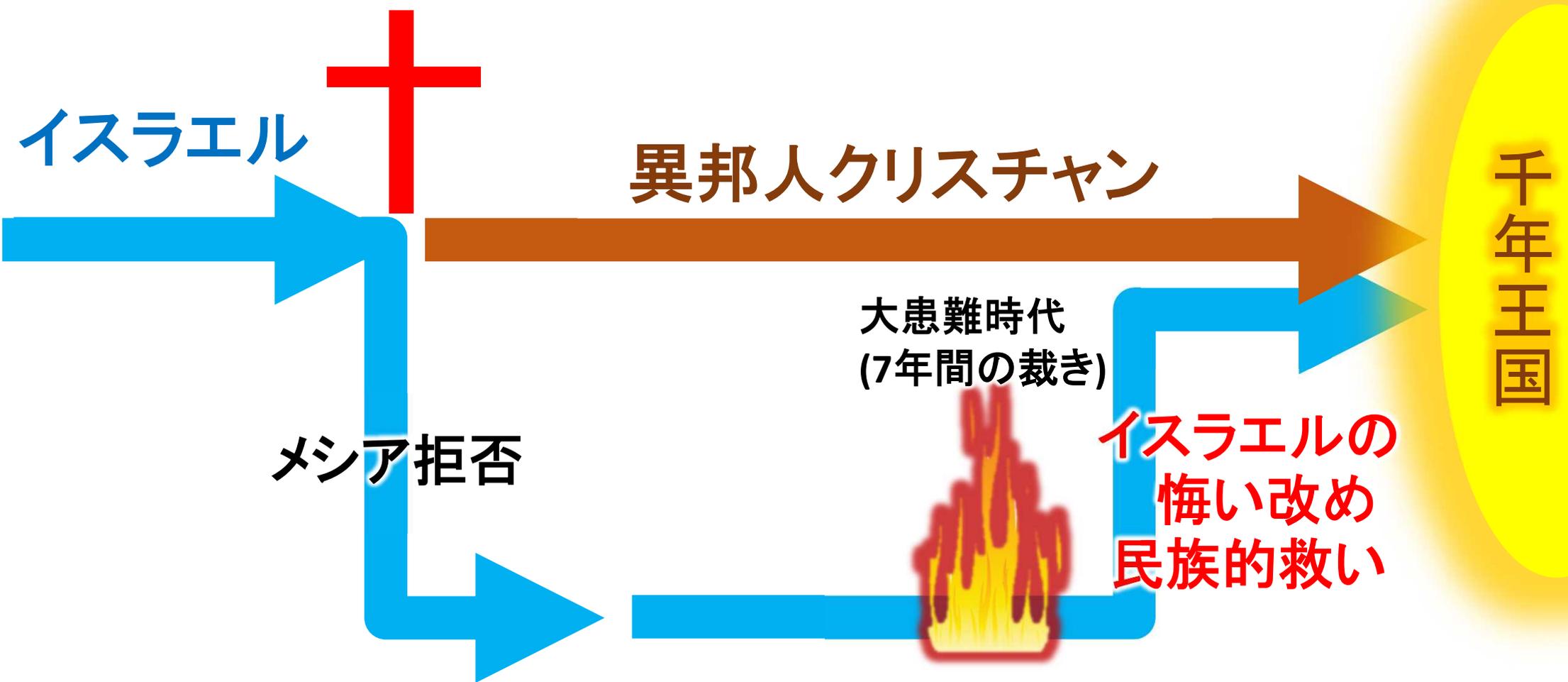
ユダヤ人

異邦人

教会

# 【イスラエルに対する神の救いの計画】

メシアを拒んだイスラエルが、悔い改める時が来る!!



# Ⅲ. 誓願に関する諸規定

レビ記27章



## 【付記: 誓願に関する律法】 レビ27:1~8

- 誓願とは、願いが聞かれた時、捧げ物をする約束。
  - ➡ 土地、家畜、その他の財産などの他、自分自身の献身を誓う場合もあった。
- 捧げものの内、土地や財産については、誓願が果たされたときには、20%を上乗せして買い戻した。
  - ➡ 買い戻すのが原則。実質的な献金となった。
- 献身する場合は、年齢、性別によって評価額があり、20%を上乗せした額で、買い戻した。
- 誓願は、あくまで自由意志により、遵守が求められた。



## 【付記: 誓願に関する律法②】 レビ27:9～34

### ■ 捧げられないもの

「27:26 ただし、家畜の初子は【主】のものである。初子として生まれたのだから、だれもこれを聖別することはできない。牛であれ羊であれ、それは【主】のものである。」

■ 人は、初子を捧げ物にはできない。神のものだから。

➡ 初子を捧げ物にできるのは、神ご自身だけ!!

■ 主は、愛するひとり子イエスを捧げ物とされた。

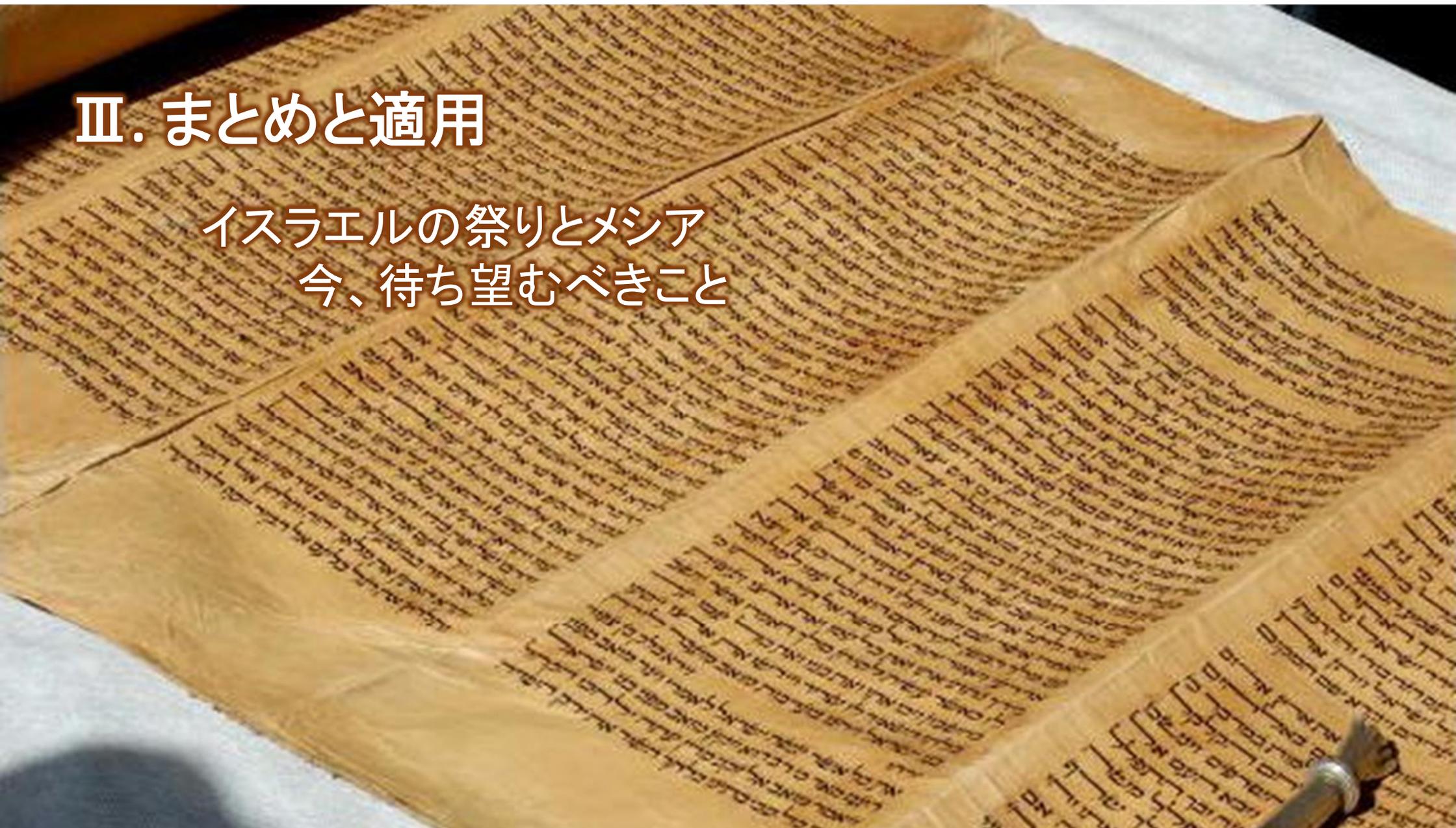
■ イエスは、父なる神から、完全に断絶された。

➡ 神の怒りの杯を飲み干された。それが十字架の死。



### Ⅲ. まとめと適用

イスラエルの祭りとメシア  
今、待ち望むべきこと



## 【サマリア人へのたとえ】 ルカ10:30～37

■ 律法学者がイエスを試し、永遠の命を得る方法を尋ねた。

■ イエスは逆に、律法にはどうあるかと聞いた。

■ 律法学者が答えたのは、二つの箇所。➡正解だった。

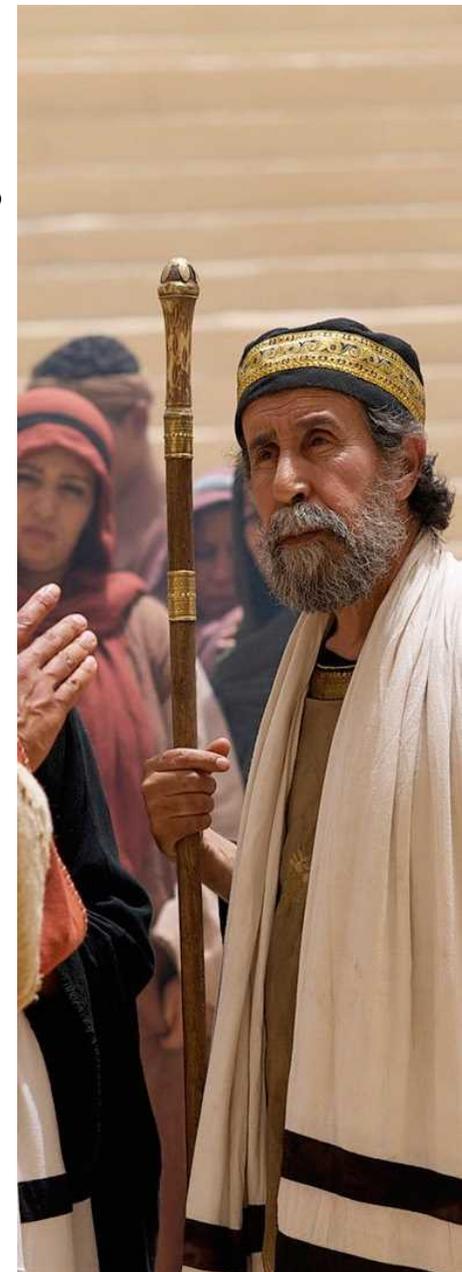
『あなたは心を尽くし、いのちを尽くし、力を尽くし、知性を  
尽くして、あなたの神、主を愛しなさい』 申6:5

『あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい』 レビ19:18

■ 行って同じようにしなさい、と告げたイエスに

律法学者は抵抗し、さらに、「隣人とは誰か」とたずねた。

■ イエスは、強盗に襲われた巡礼者のたとえを話し始めた。



## 【サマリア人へのたとえ】 ルカ

10:30 イエスは答えられた。「ある人が、エルサレムからエリコへ下って行ったが、強盗に襲われた。強盗たちはその人の着ている物をはぎ取り、殴りつけ、半殺しにしたまま立ち去った。

10:31 たまたま祭司が一人、その道を下って来たが、彼を見ると反対側を通り過ぎて行った。

10:32 同じようにレビ人も、その場所に来て彼を見ると、反対側を通り過ぎて行った。



## 【サマリア人へのたとえ】 ルカ

10:33 ところが、旅をしていた一人のサマリア人は、その人のところに来ると、見てかわいそうに思った。

10:34 そして近寄って、傷にオリーブ油とぶどう酒を注いで包帯をし、自分の家畜に乗せて宿屋に連れて行って介抱した。

10:35 次の日、彼はデナリ二枚を取り出し、宿屋の主人に渡して言った。『介抱してあげてください。もっと費用がかかったら、私が帰りに払います。』

10:36 この三人の中でだれが、強盗に襲われた人の隣人になったと思いますか。」

10:37 彼は言った。「その人にあわれみ深い行いをした人です。」するとイエスは言われた。「あなたも行って、同じようにしなさい。」



## 【よきサマリア人のたとえの背景①】

- エルサレムからエリコまで、約30km、高低差900m。  
➡このルートは、東からのエルサレムへの巡礼路

- 祭司 ...レビ族の中のアロンの家系。  
死体に触れて汚れることを恐れた？  
※律法の上に、さらに厳しい口伝律法が!!  
➡神殿の務めは終わった後。  
もし死体だったら、きよめればいい。

- レビ人 ...レビ族。アロンの家系の祭司ではない。  
神殿で、祭司の補助的な奉仕をした。  
※汚れについては、祭司ほど、厳しくない。



## 【よきサマリア人のたとえの背景②】

### ■ サマリア人とは？

イスラエル分裂後の北王国の末裔。

侵略者アッシリアの強制移住政策により、北では、異邦人とイスラエルが入り混ざることに!!

→ユダヤ人からは、異邦人同然に見なされていた。

### ■ このサマリア人は、巡礼者？！

わざわざ遠回りをして、素性を隠して巡礼する、信仰深いサマリア人が実際にいた？

→現実にあることだからこそ、たとえになる。

### ■ 過越祭後なら、50日後の五旬祭に再び巡礼する。

足りなければ、残りは次の巡礼の時に払うと？

→律法の時代の信仰は、律法の遵守に基づくもの。



## 【主イエスが教えるレビ記の神髄】

■「誰が隣人になったのか」 律法を真に遵守したのか？

➡ 律法学者が口にしたくなかった、「親切なサマリア人」

■ 律法の神髄は、“神を愛し、人を愛すること。”

■ レビ記の神髄は、

「隣人を自分のように愛すること」 レビ19:18

➡ 真実に神を愛し、人を愛するものこそ、真の神の民。

■ 律法に従い、巡礼祭を守り、隣人を愛した、

忠実な神の民の姿が、親切なサマリア人に現れている。



## 【メシアが教える律法・レビ記の神髄】

■ 律法学者は、正しい答えを知っていても、それを実践できなかった。

→ 律法は、正しい道を教えるが、実行する力を与えてはくれない。

人は、正しいことをやり通せない。行いによっては救われない。

■ 律法は、人に、罪の現実を否応なしに突きつける。

■ 救いの道は、律法が指し示す、メシアにある。

“イエス・キリストが、わたしの罪のために十字架にかけられ、死んで葬られ、死を打ち破って復活された。”

→ メシアこそ、真の大祭司、真実な犠牲の捧げ物、完全にきよい方。

## 【レビ記の教えを心と体に刻んで】

- 律法の学びを深めるほどに、浮かび上がる、自分の罪がある。
- きよくありたいと願うほどに、自分の汚れを思い知らされる。
- ただ福音を信じて救われて、生まれ変わっても、この世に生きている限り、さいなまれる罪がある。
- 信仰が成長するほどに、罪の自覚は深まっていく。

## 【レビ記の教えを心と体に刻んで】

■ 教会は、霊的戦いの最前線。クリスチャンの日々も、同様。

そこには常に、葛藤があり、軋轢も生じる。

日々の試練は、私たちを練り上げ、成長させるためのもの。

■ 救いの道も、聖化の道もただ一つ、主イエスに信頼すること。

主に委ねて、福音宣教の使命に押し出されていこう。

私の欠けを、内に住まわれる御霊が補い、確かに導いていってくださる。

■ 具体的な伝道の歩みの中で味わい知らされる、自分自身の変化がある。

体験的に、主の恵みを知っていこう。いつでも主が共におられる。

「天のお父さま。

わたしは、御子(みこ)イエス・キリストが、

①わたしの罪(つみ)を贖(あがな)うために十字架で死に、

②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、

③三日目に復活(ふっかつ)したことを信(しん)じます。

日々(ひび)思(おも)い知(し)らされる、わたし自身(じしん)の罪(つみ)があります。どうか御霊(みたま)によって、助(たす)けてください。

おどろくばかりの主(しゅ)の恵(めぐ)みを、存分(ぞんぶん)に味(あじ)わい知(し)っていくことができますように。

よろこびをもって、日々(ひび)の使命(しめい)に遣(つか)わしてください。

主(しゅ)イエス・キリストの御名(みな)によって祈ります。

アーメン」